

## 南足柄市立向田小学校

研究テーマ：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

～考えて、比べて、また考えよう～

### 1、実践の目的

昨年度は、特に、「主体的な学びの実現」に焦点をあて、進んで既習を生かし、理由や根拠を提示しながら自分の考えを表現しようとする子どもの姿をめざしてきた。副題にも掲げたように、「自分でまず考え、それを友だちの考えと比べ、そこから自分の考えの再構成を図る」ことが学習の流れとして共通理解され、「拡散」された考えをどのように「収束」させるかについて全教員が模索してきた。これまでの研究において、「拡散された考えをどのように練り上げるか」が長年の課題であったため、その手立てが見えたことは、昨年度の研究の成果であったと考える。

そこで、今年度は、昨年度の研究で築いた基盤の上に、収束に向けた対話の在り方について、さらに研究を深めていくことにした。本市と本校の研究テーマにはつながりがあり、本校のテーマを追究していくことで、本市のテーマの実現に近づくであろうと考えた。

まとめていくことになる。この「拡散」から「収束」に向けた対話において、今年度は「めあてに立ち返る」ことを意識した。学習の「めあて」は、授業の導入時に、自分たちが本時でめざすことを明確にするものである。意見が拡散されると、自分たちがめざすゴールを見失いがちになるが、めあて自体が子どもが主体的に考えたものであるならば、拡散の広がりが適切な幅の範囲に収まるはずである。

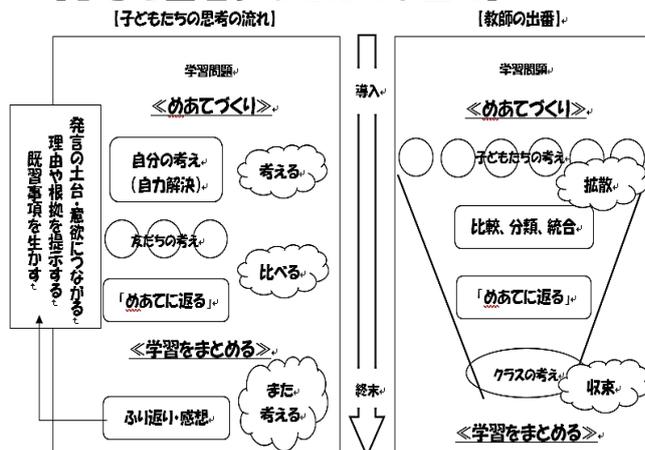
また、収束に向けた対話を生み出すために、出された考えを比較したり、分類したり、統合したり、教科の見方・考え方に応じて並べたりするなど、「思考を整理するための手立て」を明確にした。研究授業に限らず、どの授業においても、子どもの考えを生かしながら「めあてを立て」「学習をまとめる」ことは重要であり、それが主体的な対話や納得感のあるまとめにつながるできると考えた。

### 2、実践の内容

#### (1) 拡散から収束に向けた対話の充実

研究テーマの副題「考えて、比べて、また考えよう」にあるように、授業の流れは、本時の課題からめあてをつくり、自分の考えをもつところから始まる。その後、考えを表現し合うことによって意見が拡散され、それぞれの考えを比べながら、統合、精査し、

#### 【思考を整理するための手立て】



## (2) 振り返り活動の充実

主体的・対話的で深い学びを実現するためには、「まとめについて、自分自身はどう考えるのか」振り返ることも重要である。振り返り活動を充実させることで、分かったことやできるようになったことが明確になり、それを手がかりに理由や根拠を示しながら説明したり、新たな問題を見出したりすることができる。

また、発言が苦手な児童も、自分の考えがしっかりと記述されていれば、それが発言するきっかけになり得る。そして、そのことが学びを探究しようとする意欲につながり、対話が生まれると考えた。

振り返り活動を行う際には、「わっとできる子」(分かったこと、次に学びたいこと、友だちの考えを聞いて思ったこと、できるようになったこと、これからの学習や生活に生かしたいこと)の視点を与えた。そうすることで、何を書けばよいか明確になり、本時の学びを次の学びに生かすことができるようになる。

また、振り返り活動の手段として、今年度はノートだけではなく、ICTを利用してオクリンクのソフトを積極的に活用している。オクリンクに本時の感想を送れば、全ての児童の振り返りを短時間で共有することができ、そこから自分と同じ感想をもつ友だちを見つけて自信につながったり、新たな問題を見出したりすることができる。

### 【振り返りの視点を整理して掲示】

振り返りの「わ・っ・と・で・き・る・こ」

- ① わかったこと。
- ② 次に学びたいこと、課題。
- ③ 友達の考えを聞いて思ったこと。
- ④ できるようになったこと。
- ⑤ これからの学習や生活に生かしたいこと。

↑ 振り返り活動において活用

## (3) 教師の主体的な学びづくり

子どもたちの主体的・対話的で深い学びを促すためには、教師自身もまた主体的・対話的で深く学ぶ必要がある。

そこで、第1回校内研究全体会では、研究の方向性や内容を教師全員で決めた。全員で対話することで、研究の方向性を共通理解することができた。会議で話し合った「主体的な学びの姿」や「それを実現するための手立て」は、職員室内の「研究掲示板」に掲示し、全教員が日常的な授業改善を意識するようにした。

## 3、実践の成果

今年度も、「拡散させた考えを収束させる手立て」について研究を続けた。導入時に明確な「めあて」を立て、収束に向けた対話の中で「めあてに立ち返る」ようにすれば、納得感のあるまとめに近づくことを実感し、全教員が収束に向かう流れを意識し始めた。

また、視点を与えた振り返り活動によって学習内容の定着が図られ、既習を生かして課題を解決したり、学んだことを生活に生かしたりする姿が見られるようになった。

## 4、今後の展開

今後は、これらの手立ての徹底を図り、限られた授業時間の中で、「めあてづくり→自力解決→拡散→収束→まとめ→適用→振り返り」を確実に実践できるようにしていきたい。

そして、学校として授業改善に組織的に取り組めるように、日頃から各教室の様子を自由に参観できるようにし、気になる授業があれば、ふと立ち寄れるような雰囲気づくりも行っていきたい。